

教室環境のUD化

① 場の構造化

- 1.ものの一つ一つに、「しまう場所」があるか?
- 2.生徒にも一目でわかる「目印」があるか?
- 3.視覚的な「お手本」が用意されているか?



◆ものの置き場所を決める。

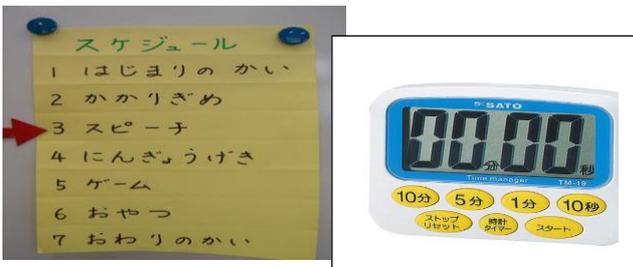
➡整理整頓ができている環境は落ち着く

◆写真やテプラ等、手本を添付する。

➡見ただけでわかる

② 時間の構造化

- 1.授業全体の見通しをもてる手だてがあるか?
- 2.時間の区切りが明確であるか?
- 3.今、すべきことが分かる手だてがあるか?



◆はじめに、どのような流れで授業が行われるかを提示する。

➡見通しがもてると安心できる。

◆今やっている場所を、矢印やマグネットなどで貼るのもよい。

➡今何をする。あとどれ位するがわかる。

◆タイマーの使用

➡時間配分の目安になり、進度が揃う。集中力を高める。

③ 刺激量の調整

- 1.注意散漫の原因因子をおさえる配慮があるか?
- 2.黒板周りはシンプルになっているか?
- 3.席順や座席の位置は最適か?



◆教室の前面は、極力すっきりとさせる。

作品等は、側面や後ろ面に貼る。

棚等は、カーテンなどで目隠しをする。

➡前面の掲示物は、教育目標+1程度

◆先生の声が刺激になっていることもある。

➡聴覚過敏の生徒もいるため、精選した、落ち着いた声掛けを心がける。

授業のUD化

④ 内容の構造化

1. 授業の見通しをもたせているか?
2. 授業は、スモールステップ化されているか?

今日のながれ



- ◆ 「今日のながれ」を提示する
 - ➡ 見通しが持てて取り組みやすい。
- ◆ 課題をスモールステップ化する。
 - ➡ 達成感を得られ、生徒の意欲付けになる。段階を細かく設定することでつまずきが明らかになる。
- ◆ 既習の学習に絡めて指導する。
 - ➡ 新出事項理解の定着の助けになる。更に、既習事項の確認にもなる。

⑤ 焦点化

1. 1時間の授業の「ねらい」を絞っているか?
2. 最後に、振り返りをしているか?

目標

ポイント

まとめ

- ◆ 授業の始めに「ねらい」を、最後に「まとめ」を提示する。
 - ➡ 目標を提示することで、授業の到達点が理解されやすい。
- ◆ この授業で身につけさせたい力を特定し、その中からねらいを絞る。
 - ➡ ねらいが漠然としていたり、多くを盛り込んだりしてしまうと目標も曖昧になる。
- ◆ 子どものひらめきをどこで引き出すか、『ポイント』を設定する。

⑥ 視覚化

1. 実物や半具体物、写真、イラスト、ICT 機器等の提示で、イメージを持たせるよう工夫しているか?
2. シンプルな整理された板書を心がけているか?
3. 図や表などにまとめ、見てわかるように工夫しているか?



- ◆ 聴覚だけでなく、視覚的にも提示する。
 - ➡ 聴覚が弱い、イメージをつかみにくい、理解がゆっくりの生徒にも分かりやすい
- ◆ 実際にやってみる等、体験を取り入れる。
 - ➡ 実際体験したことは、定着しやすい。
 - ➡ 興味関心を喚起させ、集中力を高める。

⑦ 共有化

1. 分からない子にも参加できる工夫をしているか？
2. どの生徒も発言のチャンスを与えているか？
3. 考える時間を意図的に取り入れているか？



<1 シンキングタイム>

◆ 机間指導をし、賞賛やヒントを出す。

➡ 自分の考えをもつ時間を確保する。

<2 ペア学習、グループ学習>

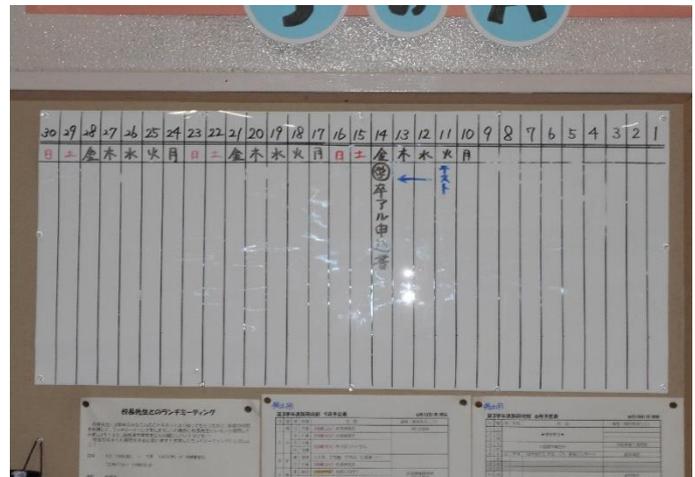
◆ 生徒一人ひとりが自分の意見を発表したり、話し合える機会を保障する。

➡ 一人一人が学習に参加し、問題解決型学習を行えるようになる。

⑧ 提出物の明確化

- 1 提出物は、後ろの壁に、忘れ物対策ボード(愛称 しめきりん)を掲示する。
- 2 基本は教科係が記入するが、最終的な管理は担任が行う。

中学校では、教科ごとに先生が変わり、提出物等の管理はとても難しい。目に見える形で、各教科のしめきりんやテスト日程等が分かれば、本人にとっても家庭にとっても見通しがもて、大変助かると考えた。全ての学級に導入するとともに、メモが難しい生徒にはchromeでの撮影も許可している。



⑨ テスト問題のUD化

- 1 テスト用紙はなるべく A サイズで統一する。
- 2 書体はUD デジタル教科書体等、見やすい書体にする。
- 3 わかりやすいレイアウトで作る。
ex・行数が詰まりすぎないようにする。
・選択肢を別のフォントまたは、太字にする等見分けやすくする。



サポートルームのタイプ別支援法

手だて		LD	ADHD	ASD
授 業 の U D 化	本時の目標を提示する。	○	○	○
	授業の流れを提示する。	○	○	○
	振り返りの時間を入れる	○	○	○
	復習から授業に入る。	○	○	○
	発問を工夫し、授業の目的を焦点化する。	○	○	○
視 覚 化	授業規律のルールは掲示しておく。		○	○
	タイマーで時間を見える化する。			○
	授業内容を視覚化する。 (パワポ、写真、実物)	○	○	○
指 示 の 工 夫	短く簡潔に話す。	○	○	○
	一時一事の原則	○	○	○
	注目させてから指示を出す。		○	○
	具体的に指示を出す。			○
	否定形を使わない。			○

展 開 の 工 夫	授業の型をパターン化する。			○
	集中が持続するよう、10～15分の活動に分けて構成する。		○	
	聞く、話す、見る、書く、動くなど様々な学習方法を取り入れる。	○	○	○
	個別、ペア、グループなど様々な学習形態を取り入れる。	○	○	○
	全員が参加できる活動を用意する。	○	○	○
	できている時にすかさずほめる。	○	○	○
個 に 応 じ た 支 援	UDチョークを使う。	○		
	板書が苦手な生徒には、ポイントだけ写すように指示する。	○		
	chromeで板書を撮影することを認める。	○		
	早く終わった生徒のためのチャレンジ問題の用意をする。	○	○	○
	ヒントカード、補助プリントを用意する。	○	○	○
	課題の自己選択をさせる。	○	○	○